

## ミズニラを食害するオナジマイマイ

齊藤 吉永

古くから水田雑草として本州以南の各地に生育していたミズニラ（ミズニラ科）*Isoetes japonica* Al. Br. が最近急に減少しているのに驚いているが、その原因の一つに開発によって自生地が埋立てられたり湿田が乾田に変わったことにもよるが、実は筆者が埼玉県産のキタミソウ（ゴマノハグサ科）*Limosella aquatica* L. を水盤に栽培しているがどこからまぎれこんだのか5年前からミズニラが5—6株程生えてきた。これが例年何者にか食害されて無残な姿をさらすが消えもせず毎年新しい葉を伸ばしてくれている。

1994. 7の或る日の朝、小さなカタツムリが10数匹ミズニラの葉を食べているのを見つけた。早速カメラを持ちだして見るとほとんどが逃げだして僅か数匹が残っていたが、カメラを向けると歩きだしてしまっただけで食害しているところはキャッチできなかった。調べて見るとこのカタツムリはオナジマイマイ科のオナジマイマイ *Bradybaena simitaris* (Férussac) の幼生で日本では本州以南の全国的に分布する普通種であることが判った。このオナジマイマイは甘蔗（イネ科）*Saccharum officinarum* L. と共に世界的に広がって今ではアフリカから太平洋、印度洋諸島にまで分布するという。

ミズニラを食害する陸貝を報告しておきたい。

(1994. 9. 21)

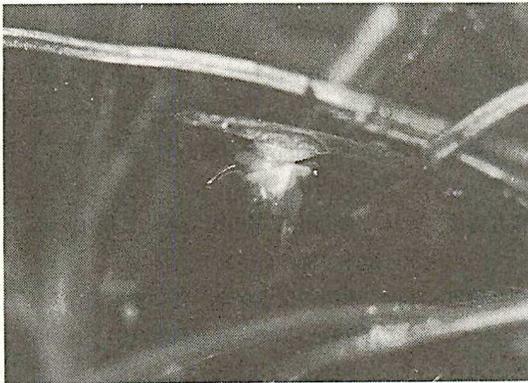


写真 ミズニラを食べるオナジマイマイ

## フサジュンサイの北限

角野 康郎

北米原産の帰化植物フサジュンサイ（ハゴロモモ）は、オオカナダモ・コカナダモほどの勢いはないが今も本州以西の各地で分布を広げている。北海道からは、大滝末男氏による千歳川での生育確認の報告がある。しかし、標本が残されていないことと、筆者が千歳川を調査したとき確認できなかったことから、一時的な定着であった可能性もあると判断し、拙著『日本水草図鑑』の分布図では青森県を北限としておいた。

ところが、今年9月、札幌で開かれた日本植物学会に参加した機会に石狩・空知地方の池沼めぐりをした際、江別市に隣接する南幌町三重にある三号沼にフサジュンサイが大量に繁茂していることを確認した。この沼は「三重湖公園」として整備されているが、水草はいろいろな種類が残っている。抽水植物ではヨシ、ガマ、ミクリ、フトイなど、浮葉植物ではヒシ、ヒルムシロ、スイレン、そして水中にはイヌタヌキモ、イトモ類似のヒルムシロ属植物がフサジュンサイとともに生育していた。

フサジュンサイは、この沼が公園化されたときにスイレンなどとともに導入された可能性が高いが、繁茂状態から判断して、ここで越冬して増えていると思われる。今後の観察も必要であるが、野生化が確認された北限として報告しておきたい。

## オオサンショウモの野生化

角野 康郎

オオサンショウモ *Salvinia molesta* Mitchell は、熱帯地方で湖沼や水路を埋めつくし、深刻な雑草問題を引き起こしている水草のひとつである。その繁殖力はホテイアオイに勝るとも劣らない。日本には観賞用の水槽植物として導入され、水槽や温室で栽培されている。大滝・石戸共著『日本水生植物図鑑』（1980）では「寒さに弱いので帰化状態になっていない」とあり、拙著『日本水草図鑑』（1994）でも「まだ逸出はしていないようである」としておいた。

ところが私の図鑑をご覧になった神戸市在住の白岩卓己氏から、オオサンショウモが野生化している場所があるというご指摘を受けた。場所は神戸市須磨区にある奥



写真 (上), (下)野生化して水面に広がるオオサンショウモ。神戸市須磨区奥須磨公園 1994. 9. 25.

須磨公園の池である。この公園内にはいくつか池があり、魚釣りやザリガニ採りができる池やトンボ池など一部の池は親水公園化されている。しかし、オオサンショウモがある池は、木立の中の目立たない場所にあって、ほとんど放置された池である。

私は9月25日にこの池を訪れたが、池一面にびっしりと広がるオオサンショウモに驚いた(写真)。今まで温室でしか見たことがなく、日本の屋外でこのような繁殖力をもつとは想像できなかったからである。白岩氏によると、この池で越冬するとのことである。私も今冬の状態を観察して、また続報を書こうと思っている。

情報をお寄せいただいた白岩卓己氏に感謝したい。

#### ○文献リスト〈1993-(4)〉

- 伊藤浩司, 1993. 釧路湿原の合理的利用方策. 北大大学院環境科学研究科邦文紀要 (6): 1-15.
- 岩村政浩・倉成靖任, 1993. 滅びゆく佐賀県の湿原と湿原植物. 佐賀の植物 (29): 45-64.
- 薄葉 満, 1993. 法正尻・西久保部落共有堤(仮称)の植生. フロラ福島 11: 19-22.
- Short, F. T., D. Porter, H. Iizumi & K. Aioi, 1993. Occurrence of the eelgrass pathogen *Labyrinthula zosterae* in Japan. Diseases of Aquatic Organisms 16: 73-77.

#### 〈1994-(2)〉

- 芦屋市建設部環境保全課, 1994. 芦屋市イモリ池の植生学術調査報告書(再録). 兵庫の植物 (4): 127-147 [1975年の報告の再録].
- 大隈光善・福島裕助・田中浩平, 1994. スクミリンゴガイの水田雑草食性と水稻苗の食害防止. 雑草研究 39: 109-113.
- 角野康郎, 1994. 水辺環境の危機と水草の絶滅. 科学 64: 691-693.
- 角野康郎・高野温子, 1994. [研究ノート] 日本産ヒシ属の分類地理学的研究. 植物分類地理 45: 80-81.
- 角野康郎・平啓雅子, 1994. 日本のイボウキクサ. 植物分類地理 45: 75-76.
- 狩山俊悟・小島裕子・榎本敬, 1994. 岡山県水草目録. 倉敷市立自然史博物館研究報告 (9): 25-54.
- 木原 敏, 1994. 水路中におけるホテイアオイ根毛による脱窒効果について. 環境技術 23: 379-385.
- 小林禧樹, 1994. 明石市N池の植物目録. 兵庫の植物 (4): 117-126.
- 桜井善雄, 1994. 湖沼沿岸帯の環境変化と植生の保全. 用水と廃水 36: 28-32.
- 桜井善雄, 1994. 水辺の環境保全—特に植生のはたらきとその保全について. 人と自然 (3): 1-15.
- 外山雅寛, 1994. 日本産食虫植物の記録よりみた歴史的知見 (V) コタヌキモ(エゾタヌキモ)とヒメタヌキモの区別. 食虫植物研究会誌 45: 39-40.
- 外山雅寛, 1994. 北海道美々湿原の植物相について(第2報). 食虫植物研究会誌 45: 91-98.